

科学的介護情報システム（L I F E）を活用した介護過程実践に関する調査研究事業
株式会社コモン計画研究所 （報告書A4版 91頁）

事業目的

令和3年度より始まった「科学的介護情報システム（L I F E）」（以下、「L I F E」という）は、アセスメント情報等のデータ登録及びフィードバックの活用を通じて、介護事業者におけるケアの質の向上を図る新たな取り組みである。L I F Eの活用や推進において介護過程実践は必須であり、その担い手である介護福祉士の役割は大きいと考える。

本調査研究においては、介護過程実践事例調査（以下、「事例調査」という）を通じて以下の3つを明らかにすることを目的とする。なお②③は、前年度事業で残された課題を踏まえた取り組みである。

- ① L I F E導入をきっかけに、組織や介護職チームが介護過程実践に関連して取り組んだこと、その効果や影響は何か
- ② ①の取り組みを踏まえた介護過程実践の中で、介護リーダーにはどのような効果や影響があったのか、またその介護リーダーを通じて介護職チームにはどのような効果や影響があったのか
- ③ L I F Eを活用した介護過程実践を受けた利用者にはどのような受益や変化があったか

なお、本調査研究はL I F E活用の推進に軸足を置くものではなく、L I F E活用を通して介護過程実践の深化・推進を図ることを目的としている。

事業概要

1. 本調査研究内容

(1) L I F Eを活用した介護過程実践事例調査の実施

L I F Eを導入または導入を予定している介護事業者において、L I F Eの活用による介護過程を実践し、上記の①～③を明らかにすることを目的にL I F Eを活用した介護過程実践事例調査」を実施した。調査の枠組みは下記の通りである。

【調査の枠組み】

1. 対象： 介護老人福祉施設：4事業者、5事例
介護老人保健施設：3事業者、5事例
通所介護：2事業者、2事例
認知症対応型共同生活介護：2事業者、2事例
小規模多機能型居宅介護：1事業者、1事例
看護小規模多機能型居宅介護：1事業者、1事例
2. 要件：① L I F Eを導入または導入予定であること、②法人から選出された代表者が作業

部会委員として情報交換や事例とりまとめ発表・報告等を行うこと

3. 事例対象：個別ケア（利用者）
4. 実施期間：令和3年11月～令和4年2月のうち3か月程度

【調査方法】

作業部会委員は、下記の通り、それぞれ介護リーダー（介護福祉士）と介護過程実施の課題や介護職チームの課題を抽出し、個別ケア実践事例（事例対象者＝利用者）の実践計画書を立案し、L I F Eを活用した介護過程実践による利用者の変化や介護職チーム・介護リーダーの変化を目指した取り組みを行った。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、事例調査実施以外はリモートとした。

- ① 事前ヒアリング（プレゼンテーション）
- ② 情報・意見交換会
- ③ 実施計画作成・個別打合せ
- ④ 事例調査実施
- ⑤ 事例調査中間報告
- ⑥ 事例調査まとめ方動画配信
- ⑦ 個別打合せ
- ⑧ 介護リーダーヒアリング
（新型コロナウイルス第6波の期間に重なったため、対応可能な事業者のみ）
- ⑨ 事例調査実施報告

本事例調査は、弊社におけるプライバシーポリシーに基づき実施し、取り扱う事例については下記の通り具体的配慮を行うとともに、確実な実行を担保するため社内の第三者（担当外）によるチェック体制を整備した。

- ・具体的配慮1：事例に関する情報として実施計画、中間報告、実施報告及び成果物において対象者の氏名、年齢、性別を明示しないことを徹底した。
- ・具体的配慮2：写真等については個人が特定できないモザイクや塗りつぶし加工をした画像のやり取りを徹底し、掲載にあたっては同様の対応をした。
- ・具体的配慮3：上記1及び2の対応がされない状況が確認された場合は、速やかにその状況を事例提供事業者及び事務局で共有し、双方における当該データの消去等を実施した。

（2）L I F Eを活用した介護過程実践事例集の作成

L I F Eを活用した介護過程実践事例調査結果について、介護事業所における介護過程の推進、介護職員現任者研修、介護福祉士養成校等において教材の一部として活用を図ることを目的に、「科学的介護情報システム（L I F E）を活用した介護過程実践事例集」（以下、「事例集」という）を作成した。

事例集は、印刷製本をして関係機関への配布のほか、広く多様な関係者・機関の活用を推進するため、弊社ホームページにて公開する。

【事例集の主な内容】

1. 事例集活用のねらい、ながれ、事例のみかた
2. 介護過程及びL I F Eの解説

3. 事例から得られる示唆

4. LIFEを活用した介護過程の実践事例

- 事例1 車いすの日常から歩ける可能性を見つめ直した取り組み
- 事例2 実践1 読書と食後の運動をとりいれ自分らしい日常生活を維持する取り組み
実践2 支援を拒み体重減少が顕著な人への関わり
- 事例3 躁うつ状態時の分析を通して安定した日常生活につなげた取り組み
- 事例4 クモ膜下出血の後遺症により失いかけていた意欲を取り戻すための取り組み
- 事例5 「食べたい」という利用者の思いを叶える食の支援
- 事例6 依存が強い状態から自分でできる範囲を広げる取り組み
- 事例7 実践1 排せつ動作の回復を経て在宅復帰を果たした取り組み
実践2 うつ状態と低栄養状態からの回復を目指した取り組み
実践3 著しいBPSDが改善するまでの関わり
- 事例8 ベッド上の生活から座位保持して生活ができるまでの取り組み
- 事例9 パーキンソン症状に伴い縮小した生活の幅を広げる取り組み
- 事例10 安心して食べられる支援を探索した取り組み
- 事例11 利用者の願いに向き合い日常生活のなかで機能改善を図る取り組み
- 事例12 在宅での生活に意欲と主体性を取り戻すための認知症ケア
- 事例13 終末期の利用者の願いと日常生活を整える取り組み

2. 検討委員会の設置

学識経験者、職能団体、事業者団体からの推薦者で構成される検討委員会を設置し、調査に関する方法及び内容の検討・精査・修正等に関する助言、調査結果を踏まえた今後の提言について検討を行った。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、すべてリモート開催とした。

役職	所属等	氏名（敬称略）
委員	公益社団法人日本介護福祉士会 会長	及川ゆりこ
委員	公益社団法人全国老人福祉施設協議会 老施協総研運営委員会委員	神部 健史
委員	全国福祉高等学校長会 事務局次長	真田 龍一
委員	公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会 理事 聖隷クリストファー大学 教授	野田由佳里
委員	一般社団法人日本在宅介護協会 介護保険制度委員会委員	早見浩太郎
委員	東洋大学ライフデザイン学部 教授	古川 和稔
委員長	社会福祉法人本庄ひまわり福祉会 理事・総合施設長	本名 靖
委員	公益社団法人全国老人保健施設協会 管理運営委員会副委員長	山野 雅弘

【オブザーバー】

所属等	氏名（敬称略）
日本福祉大学 教授	武田 啓子
厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課福祉人材確保対策室 介護人材確保・広報戦略対策官 ※令和3年9月末日まで	鈴木 俊文
厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課福祉人材確保対策室 介護人材確保・広報戦略対策官 ※令和3年10月1日より	藤野 裕子
厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課福祉人材確保対策室 介護福祉専門官	鈴木真智子

3. 作業部会の設置

有識者、関係者で構成される作業部会を設置し、本調査研究における事例調査の実施、調査結果の分析、結果を踏まえたまとめ・今後の提言案等の作成を行った。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、すべてリモート開催とした。

役職	所属等	氏名（敬称略）
委員	社会福祉法人小田原福祉会 特別養護老人ホーム潤生園 施設長	井口健一郎
委員	社会福祉法人長岡福祉協会 介護老人保健施設新橋ばらの園 介護課 係長	生出 大介
委員	株式会社ツクイ 東海圏 本部長	金澤 彰洋
委員	株式会社トッツ デイサービスセンターふぁみりい 所長	橘高 裕行
委員	医療法人徳洲会 介護老人保健施設あいの郷 相談部門主任	白石 学
委員	メディカル・ケア・サービス株式会社 事業支援部 部長	神保 勉
委員	社会福祉法人山形 特別養護老人ホームサンシャイン大森 部長	菅原 浩
委員	株式会社やさしい手 執行役員	中村 徹也
委員	社会福祉法人彩光会 特別養護老人ホームあけぼの 介護係長	成田 裕暁
委員	社会福祉法人明翠会 特別養護老人ホームなのはな苑ふくおか 介護統括主任	松橋 卓磨
委員	社会福祉法人河内厚生会 介護老人保健施設もえぎ野 介護長	宮本 栄子
部会長	公益社団法人日本介護福祉士会 理事	望月 太敦
委員	医療法人博仁会 志村フロイデグループ 介護部 部長	森 久紀
委員	医療法人明成会 介護老人保健施設紀伊の里 施設長	山野 雅弘

【オブザーバー】

所属等	氏名（敬称略）
日本福祉大学 教授	武田 啓子
厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課福祉人材確保対策室 介護人材確保・広報戦略対策官 ※令和3年9月末日まで	鈴木 俊文
厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課福祉人材確保対策室 介護人材確保・広報戦略対策官 ※令和3年10月1日より	藤野 裕子
厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課福祉人材確保対策室 介護福祉専門官	鈴木真智子

調査研究の過程

開催			主な議事内容
第1回	検討委員会	日時：令和3年9月3日（金） 17時～19時 場所：zoom	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度社会福祉推進事業の報告 本年度事業の目的と調査研究概要 ※L I F Eの概要について共有 取組1 事例調査について 事例調査候補について 取組2 事例集作成について スケジュールについて
第1回	作業部会	日時：令和3年9月27日（月） 10時～12時 場所：zoom	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度社会福祉推進事業の報告 本年度事業の目的と調査研究概要 取組1 事例調査について 取組2 事例集作成について スケジュールについて 事例調査対象施設・事業所紹介 科学的介護情報システム（L I F E）とは 事前ヒアリング（プレゼンテーション）の準備について
第2回	作業部会	日時：令和3年10月12日（火） 17時～20時 場所：zoom	<ul style="list-style-type: none"> 事例調査事前ヒアリング（プレゼンテーション）発表及び質疑応答 4事業者
第3回	作業部会	日時：令和3年10月18日（月） 17時～20時 場所：zoom	<ul style="list-style-type: none"> 事例調査事前ヒアリング（プレゼンテーション）発表及び質疑応答 3事業者
第4回	作業部会	日時：令和3年10月21日（木） 13時～16時 場所：zoom	<ul style="list-style-type: none"> 事例調査事前ヒアリング（プレゼンテーション）発表及び質疑応答 5事業者
第5回	作業部会	日時：令和3年10月26日（火） 17時30分～19時30分 場所：zoom	<ul style="list-style-type: none"> 介護老人保健施設情報交換会 4事業者
第6回	作業部会	日時：令和3年10月27日（水） 13時～15時 場所：zoom	<ul style="list-style-type: none"> 介護老人福祉施設情報交換会 4事業者

開 催			主な議事内容
第7回	作業 部会	日時：令和3年10月29日（金） 17時～19時 場所：zoom	・居宅介護サービス事業所情報交換会 6事業者
※事例調査実施計画書について個別打合せ（zoom） 令和3年10月27日（水）～11月16日（火）			
第2回	検討 委員会	日時：令和3年11月22日（月） 10時～12時 場所：zoom	・これまでの経過報告 ・各事業者の事例調査実施計画について ・事例集イメージ案について ・全体スケジュールについて
第8回	作業 部会	日時：令和3年12月14日（火） 15時～17時 場所：zoom	・事例調査中間報告 7事業者
第9回	作業 部会	日時：令和3年12月20日（月） 17時～19時 場所：zoom	・事例調査中間報告 7事業者
※事例調査事例集フォーマット記載に関する説明動画配信 令和4年1月4日～本調査研究終了まで ※事例調査事例集フォーマット記載について個別打合せ（zoom） 令和4年1月11日（火）～3月4日（金） ※事例調査実践介護職チーム・介護リーダーへのヒアリング（zoom） 令和4年2月9日（水）～3月17日（木）			
第3回	検討 委員会	日時：令和4年1月19日（水） 10時～12時 場所：zoom	・これまでの経過報告 ・事例集構成案について ・調査研究報告書構成案について
第10回	作業 部会	日時：令和4年2月21日（月） 17時～20時 場所：zoom	・事例調査実施報告及び質疑応答 6事業者
第11回	作業 部会	日時：令和4年2月25日（金） 15時～18時 場所：zoom	・事例調査実施報告及び質疑応答 6事業者
第4回	検討 委員会	日時：令和4年3月15日（火） 15時～17時 場所：zoom	・報告書（案）及び事例集（案）について
第12回	作業 部会	日時：令和4年3月18日（金） 17時～19時 場所：zoom	・報告書（案）及び事例集（案）について

事 業 結 果

本調査研究で実施した「L I F Eを活用した介護過程実践事例調査」の結果からは、以下が明らかになった。

1. 取り組み前の介護過程の課題

13の事例調査実施事業者が本調査研究に取り組む前に有していた介護過程に関する課題は、下記の通りである。

- (1) アセスメントに関する課題
- (2) 計画・目標に紐づく実施記録、情報共有に関する課題
- (3) 既存の業務の変更に対する様々な障壁

2. 取り組み前の介護職チーム・介護リーダーの課題

介護過程実践に取り組む主体である、介護職チームや介護リーダーに関する課題は、下記の通りである。

- (1) 介護リーダーとしての自覚・自信の不足
- (2) 介護リーダーによる介護職員への指導力、かかわりの不足
- (3) 介護過程を推進していくための介護リーダーの力量不足

3. LIFE導入をきっかけとした介護過程の取り組み・工夫

LIFE導入のきっかけをポジティブに捉え、各事業者は様々な取り組みを行った。その取り組みを整理すると下記の6つの取り組みとそれを補完する取り組み、工夫に分類できることがわかった。

- (1) アセスメント等書式の新規作成・変更
- (2) 研修・勉強会等の開催
- (3) 会議体の創設・変更
- (4) 介護リーダーの役割を周知・明示
- (5) 介護リーダーや介護職に具体的役割を付与
- (6) 実施や評価の精度を上げる取り組み
- (7) (1)～(6)を後押しする業務改善

4. 新たな取り組み・工夫による介護過程実践への効果や影響

6つの取り組み、工夫が介護過程の実践にもたらした効果や影響を分析したところ、下記の18の効果や影響が見いだせた。

- (1) アセスメント等書式の新規作成・変更による効果や影響
 - ①アセスメントポイントが組織の共通言語となった
 - ②客観的指標の推移から、利用者の課題や仮説、目標が立てやすくなった
 - ③利用者への支援効果を客観的に評価しやすくなった
 - ④自分達の組織が行っている利用者支援の自己評価ができた
 - ⑤リーダーが利用者のアセスメントポイントを理解できた
 - ⑥書式にそった情報収集機会を介護職が経験できた
- (2) 研修・勉強会等の開催による効果や影響
 - ⑦研修を通じて職員に対する介護過程の教育機会が設けられた

- ⑧介護リーダーに求められる役割と自覚を促す機会となった
- ⑨介護職チームの一員として介護職の役割の自覚を促す機会となった
- ⑩利用者支援に関する介護職の不安解消や支援方法の統一機会となった

(3) 会議体の創設・変更による効果や影響

- ⑪利用者支援に関する話し合いを通じて情報共有を行える機会となった
- ⑫他職種連携の実際的役割を担うことで介護リーダーの人材育成効果があった
- ⑬組織における介護リーダーの役割と存在を周知する効果があった
- ⑭他専門職が介護職の専門性に触れる機会となった

(4) 介護リーダーの役割を周知・明示したことによる効果や影響

(5) 介護リーダーや介護職に具体的役割を付与することによる効果や影響

(6) 実施や評価の精度を上げる取り組みによる効果や影響

- ⑮介護リーダーが介護過程実践の中で実際に中心的に機能するようになった
- ⑯介護リーダーの主体性や積極性を育む効果があった
- ⑰利用者の変化という成功体験を介護職チームが得られた
- ⑱介護リーダーの仕事に対するモチベーションが向上した

5. 利用者の受益・変化

事例調査対象の利用者の受益・変化は、大きく3つの指標から分析することができた。

- (1) ADL、身体機能に関する変化
- (2) 認知症に関する変化
- (3) 利用者のQOLに関する変化

6. 新たな課題・今後の展望

実践事例の取り組みを通じて得た新たな課題や今後の展望について、下記の3点があげられる。

- (1) 時間の増加、一部職員への負担
- (2) 事業参加チーム以外への横展開
- (3) LIFEと連動した現場実践の更なる推進

7. まとめ

本調査研究では、全国の13の介護事業者を対象に事例調査を実施したが、サンプル数としては普遍性や傾向を示せるほどの量ではない。また、各事業者のLIFE導入についても、コロナ禍その他の影響もあり、本事例調査と同時並行的に進めていただいた状況がある。

本来であれば、それぞれの取り組みの効果について客観的指標で評価が行われるべきであるが、今回はその点まで十分に取組みなかつた。したがって、今回得られた知見の評価や裏付けについては今後継続して行っていくべき課題と言える。

次に、本調査研究では昨年度の課題として残された利用者の受益・変化について調査を行った。一定の成果が得られた一方、その成果はどこまで成果と表現できるのか、一指標ごとの変化のみならず、利用者のQOLや生活全体としての受益としてさらに評価していくことは課題と言える。

また、介護過程は継続的な支援を前提とするが、今回の事業では3か月以内の短期的な取り組み

になっており、良い変化、悪い変化ともに十分な期間を経た実践結果としては得られていない。

しかしながら、L I F E をきっかけとした介護過程実践の取り組みには一定の効果が得られたことは間違いない。スタートしたばかりのL I F E と介護過程実践の進化を含めて、今後も継続的な調査研究の積み重ねが望まれるところである。

事業実施機関

株式会社コモン計画研究所

〒166-0015 東京都杉並区成田東5丁目35番15号

TEL: 03-3220-5415